金賞

今までの『当たり前 』を違う『当たり前』に

株式会社東海理化　音羽工場
中村 拓実

夜勤明けの洗濯機のアラーム音が耳障りだ。しかも何度も洗濯を回しているため、寝てもすぐに起こされてしまう。洗濯は妻が行ってくれているが、いつも洗濯をしている印象だ。そして愚痴も多い。「何でいつもこんなに洗濯物多いの？ 」と…。そんな時は「仕方ないだろ、仕事しているのだから」と心で思いながらも、妻には感謝しているし、口には出せずにいた。自分は仕事に対する自信はあったが、塗料を取り扱っているため、汚れるのは『当たり前』だとも思っていた。特に塗装機器の修理時にはよく汚してしまっていた。

そんな毎日を過ごしている中、急にコロナウイルスが渦巻く時代となってしまった。仕事の量は激減し自宅にいる日が多くなる日々を過ごしていた。 必然と洗濯物の量も減り、洗濯機のアラームの回数も減った。しかし妻からの愚痴は増える一方となっていた「いつも家でゴロゴロして」と…。洗濯物の量と妻の愚痴の量は比例しない。仕事をしたくてもできない状況であり、だれかが悪いとかじゃないのはわかっているとは思うが、愚痴は増えていった。

そんなある日、その日は出勤であったため、会社に来て設備を動かそうとした。その時、事件は起きた。自分が担当しているラインの塗装機器が全く動かなくなってしまったのだ。原因を探ると塗装機器内で塗料が固まり、作動不具合を起こしていた。よくある毎度の故障ではあったが、この日は設備が止まっていた時間が長かったせいか、修理に時間がかかった。班長と一緒にすべて部品を交換することでなんとか設備は動いてくれるようになった。その後、自分と同じように塗料まみれとなった班長が「うわっ！ また塗料が付いちゃったよ。これ怒られるんだよな」と言った。全く同じことを言われている人がいると直感的に思った。しかし、そのあとに班長が口にした言葉は印象的であった。「作業服は汚しても嫁さんには愚痴は言われるけど、綺麗にしてくれる。しかし設備は愚痴も言わずに故障して、なかなか直ってくれない時がある。なんとか壊れる前に食い止めることができればなぁ」と。故障するのは『当たり前』だと思っていた自分には、その言葉が胸に刺さった。

それからずっと何をしていても、その言葉が頭に残り、いつしか『当たり前』

を変えてみようと思うようになった。自分が担当している機械だからこそ。そこから、まずは今回故障した塗装機器の原因の解明を行った。「面白いことやっているな」と班長も協力してくれて、よく塗料が固着する部位を分解し、構造や機器の動き方を把握することから始めた。その後、塗装機器はメンテナンスと止め方の工夫をすることで故障を防ぐことができることがわかり、それを実行し、継続することとなった。その結果、塗装機器は故障しないのが『当たり前』となった。

　それから何日か経ち、すっかり生産量が戻り、日常を取り戻したある日、洗濯をしながら妻が笑顔で言った「ほんとに仕事しているの？ 洗濯物減ったみたいだけど… 」と。暑い日でも寒い日でも、いつも洗濯してくれる妻が、ちょっとの変化に気づいてくれていた。毎日見ているからこそ、ちょっとした変化に気づくことができているのであろう。きっとそれは、設備に対しても同じ。設備もしっかり毎日観察し、小さな変化にも気づくことで未然に故障は防げる。そのことを妻の洗濯と作業服の汚れが教えてくれたように思えた。『当たり前』のように鳴っている洗濯機のアラーム音も、今では　妻への感謝の気持ちへと変わった。